

『社会科学ジャーナル』原稿執筆要項

《原稿執筆について》以下の要項に従って原稿を執筆すること。

字数制限

- 論説は、和文の場合は 15,000字以上20,000 字以内、英文の場合は 4,500words以上6,000 words 以内とする。本文のほか、論説題目、執筆者氏名、注釈、図表、参考文献リスト等すべてをこの制限字数以内に収めること。要旨については、字数制限に含めない。
- 研究ノートは、和文の場合は 12,000 字以内、英文の場合は 3,600 words 以内を目安とする。本文のほか、論説題目、執筆者氏名、注釈、図表、参考文献リスト等すべてをこの制限字数以内に収めること。ただし、要旨は字数制限に含めない。
- 目安として、図表は、1ページ分(横 11.4 センチ、縦 17 センチ)が 1,000 字(和文)/310 words(英文)に相当するものとする。
- 原稿内に、著者の短いプロフィールと所属を含めること。

要旨

- 論説と研究ノートには英文要旨を本文の前に記載すること。論説の要旨は200 words以内、研究ノートの要旨は100 words以内とする。

ページ番号

- ページ番号は、全ページに通して付ける。

項目番号

- 章、節などの項目は以下の記号を用いて表示する。
 - I. (章:ローマ数字にピリオド)
 - 1. (節[上位]:算用数字にピリオド)
 - (1) (節[下位]:両括弧付き算用数字)

注釈・参考文献

- 注釈・参考文献はAPA Style 7th Editionに従って作成すること。日本語の文献についての記載方法は本要項下記の《注釈・参考文献の書き方》を参照すること。《注釈・参考文献の書き方》のほか、詳細については [Publication Manual of the American Psychological Association](#)を確認のこと。
- APA Style 7th Editionについて、以前からの変更点については[リンク先](#)のAPAマニュアルの序章を確認すること。

図表

- 図・表等はJPEGやPNG等の画像ファイル(モノクロ)で作成し、本文中の該当箇所に挿入すること。
- 図表の大きさは、出典情報などを含め最大で、横 11.4 センチ、縦 17 センチ以内に収めること。
- 引用した図表には、出典情報を付記すること。

文字等

- コンピューターで入力できない特殊な文字・記号・数式等は原稿に赤字で直接手書き記入する。
- 日本語での執筆に際して、句読点は「カンマ(,)」や「ピリオド(.)」ではなく、「読点(、)」と「句点(。)」を原則使用すること。

《原稿提出について》

提出の際には Microsoft ワードファイルを添付し、E メールで提出すること(ssri@icu.ac.jp 宛)。提出された原

稿とメディアは返却しない。

1. メールには名前と所属を記載すること。
2. 当研究所で編集後、原則として1回著者校正を依頼する。
3. 提出された原稿、メディア及び初校・再校原稿は、原則として5年間当研究所にて保管される。
4. 英語または日本語で、適切に引用されていること。適切な英語または日本語の文法、検証可能な出典の引用、誤字脱字に注意すること。
5. なお、引用規則に則って原稿を書き、すべての参考文献を記載し、(必要に応じて)関連文書を添付することは、著者の責任である。

《注釈・参考文献の付け方》

論文の注釈・参考文献の表記方式は、APA Style に基づいて作成すること。特に日本語原稿について、具体的な表記例については以下を参照すること。

注釈・参考文献の作成手順および表記例

原稿に情報を追加するために注を使用する場合は、文末注ではなく脚注をつけること。参考文献は脚注の中に含めるのではなく、本文の参考文献の箇所に別途含めなければならない。

原稿の中に出典を引用する際は、本文に著者及び著作が出版された日付を含めること。

参考文献リストは、原稿の最後に記載する。原則として、本文中に引用する出典は全て、参考文献リストに提示すること。参考文献リストを準備する際の詳細に関しては、以下の節を参照のこと。

1. 本文中での引用法: 著者-日付表記法

1.1 単独著者によって書かれた文献の引用:

- ☐ 以下の最初の例のように、著者の氏名を記載する場合、その直後に括弧を付け出版年を入れること。もしくは、(二番目のように)名前と出版年をコンマで区分し、括弧でくくること。

[物語引用] Doeppers (1984)によればマニラでは.....

or

[括弧内引用]マニラでは.....と推定する研究者もいる(Doeppers, 1984)。

1.2 複数の著者によって書かれた文献の引用:

- ☐ 2名の著者によって書かれた文献を引用する場合、テキストの中で参照する際は両者の名前を常に引用すること。

[物語引用] Ryan and Deci (2000)のレビュー論文によれば.....

or

[括弧内引用] 最近のレビュー論文(Ryan & Deci, 2000)によれば.....

- ☐ 3名から5名の著者によって書かれた文献の場合:最初の引用も含めてすべての引用において第一著者の姓とet al.(al.の後に年号をつける)という形式で記載すること。しかし、これによって引用表記が不明瞭となる場合はこの限りではない。

[すべての著者を記載する場合] Dweck, Mangels, and Good (2004)によれば.....

or

[物語引用]とDweck et al. (2004) は主張する。

or

[括弧内引用]とされる(Dweck et al., 2004)。

- ☐ 6名以上の著者によって書かれた文献の場合:すべての引用において第一著者の姓とet al.(al.の後に年号をつける)という形式で記載すること。参考文献リストには著者全員の名前を含めること。

1.3 複数の文献の引用:

- ☐ 複数の文献を括弧内引用する際、アルファベット順にセミコロンで区切って記載すること。

例:(Adams et al., 2019; Shunway & Shulman, 2015; Westinghouse, 2017)

- ☐ 複数の文献を物語引用する場合は、どの順番でも構わない。

例:Suliman (2018)、Gutierrez (2012, 2017)、Medina and Reyes (2019)によれば.....

1.4 著者が組織名の文献の引用:

- ☐ 著者である組織の名前を最初に引用する際は、つづりを省略せず正式名称を記載すること。それ以降

は、省略形で表すことも可能(名称を省略するかどうかの判断は、読者が参考文献リストで該当する項目を容易に見つけるために十分な情報を提供する必要があるという一般原則に従うこと)。参考文献リストには、正式名称を記載すること。

[括弧内引用、初出の場合] (American Psychological Association [APA], 2009)

[括弧内引用、2回目以降の場合] (APA, 2009)

[物語引用、初出の場合] American Psychological Association (2009)によれば.....

[物語引用、2回目以降の場合] APA (2009)によれば.....

2. 参考文献リストの作成法

2.1 基本ルール:

- ☑ 原則として、テキスト内で引用される出典は全て、参考文献リストに記載すること¹。
- ☑ 参考文献は、第一著者の姓をアルファベット順で並べること。
 - ◇ 同一の著者による複数の著作を引用する場合、上から年代的に古い順から並べること。
 - ◇ 単独の著者による著作は、複数の著者を持つ著作で第一著者が同じ名前の場合、単独のものを先に記載すること。例えば、「Bandura, A. (1977)」は、「Bandura, A., Ross, D., & Ross, S. A. (1961)」よりも前に記載すること。
Bandura, A. (1977)....
Bandura, A., Ross, D., & Ross, S. A. (1961)....
 - ◇ 最初の著者が同じで、二番目の著者が異なる著作の場合、二番目の著者の姓のアルファベット順で記載すること。第一著者と第二著者が同じで、三番目の著者が異なる場合は、三番目の著者の姓のアルファベット順で記載すること。
 - ◇ 同じ発行年で同じ著者の文献は、括弧の中に出版年を入れ、それに続きタイトルのアルファベット順に並べる²。
Baheti, J. R. (2001a). Control....
Baheti, J. R. (2001b). Roles of....

2.2 書籍の引用:

- ☑ DOIのある書籍の場合。
Burgess, R. (2019). *Rethinking global health: Frameworks of power*. Routledge.
<http://doi.org/10.1037/0000092-000>
- ☑ DOIのない書籍の場合。
Doepfers, D. F. (1984). *Manila, 1900-1941: Social change in late colonial metropolis*. Yale University Southeast Asia Studies Monograph Series.
 - ◇ 段落は第1行目の頭だけを出して2行目以下は下げて組むこと。
 - ◇ 著者の姓が最初に来て、その次に名前、ミドルネームのイニシャルが続く。この様式は、二番目以降の著者にも適用される。
 - ◇ 出版年が続き、それを括弧で括ること。
 - ◇ 本のタイトルはイタリックにすること。本のタイトルの最初の単語とコロン直後の最初の単語の初めの文字は大文字にし、以降はすべて小文字で記載すること。
 - ◇ 最後に出版社名を記載すること。APA 7th Editionより、出版地の記載は不要になっていることに注意。

2.3 定期刊行物の論文の引用:

- ☑ DOIのある論文の場合。
Bruner, J. S. (1942). Of psychological writing: Being some valedictory remarks on style.
Journal of Abnormal and Social Psychology, 37, 52-70. <https://doi.org/10.1037/rev0000126>
- ☑ DOIのない論文について、データベースでないURLを記載する場合。
Ahmann, E., Tuttle, L. J., Saviet, M., & Wright, S. D. (2018). A descriptive review of ADHD coaching research: Implications for college students. *Journal of Postsecondary Education*

¹ Eメールや書簡のように広くアクセスできない原典からの情報は、参考文献リストに含めない。詳細は、*Publication Manual of the American Psychological Association*を参照。

² ただし、文献がシリーズもの場合は、シリーズ順にa、b、c...をつけること。

and Disability, 31(1), 17-39. <https://www.ahead.org/professional-resources/publications/jped/archived-jped/jped-volume-31>

☐ DOIのない論文や記事の場合。

Anderson, M. (2018). Getting consistent with consequences. *Educational Leadership*, 76(1), 26-33.

Goldman, C. (2018, November 28). The complicated calibration of love, especially in adoption. *Chicago Tribune*.

- ◇ 基本的に書籍の一覧表作成の場合と同様だが、相違点は以下の通り。
- ◇ 論文のタイトルをイタリックにはせず、最初の単語のみ大文字にして、それ以降の単語は小文字で記載すること。例外として、上記の例にあるように、コロンの後は大文字で始める。
- ◇ 定期刊行物のタイトルはイタリックにして、文字の最初を大文字にすること。論文が掲載されている定期刊行物の巻とページ番号を記載すること。
- ◇ 出版社情報は含めなくて良い。ただし、定期刊行物の発行部数が限られている場合は、出版社情報を含めることが望ましい。(例) “*Journal of Social Science (International Christian University)*, 54...”

2.4 書籍の中の章の引用:

☐ 基本形としては以下の例を参照。

Zimmerman, B. J., & Schunk, D. H. (2004). Self-regulating intellectual processes and outcomes: A social cognitive perspective. In D. Y. Dai & R. J. Sternberg (Eds.), *Motivation, Emotion, and Cognition* (pp. 323-349). Lawrence Erlbaum Associates.

- ◇ 基本的には、書籍の一覧表作成の場合と同様だが、相違点は以下の通り。
- ◇ 章のタイトルはイタリックにはせず、最初の単語のみ大文字にして、それ以降の単語は小文字で記載すること。例外として、上記の例にあるように、コロンの後は大文字で始める。
- ◇ 章タイトルの後に編者の名前を載せること。イニシャルの個人名とミドルネームが最初に来て、その後姓がくる。
- ◇ 章が掲載されているページ番号について忘れずに記載のこと。
- ◇ 最後に出版社名を記載すること。APA 7th Editionより、出版地の記載は不要になっていることに注意。

2.5 オンライン上の文書の引用:

APA 7th Editionにおける変更点: URL直前の「Retrieved from」は不要になった。また、著者名と同じでない限り、ウェブサイトの名称の記載が必要である。

☐ 基本形としては、以下の例を参照。

Walker, A. (2019, November 14). *Germany avoids recession but growth remains weak*. BBC News. <https://www.bbc.com/news/business-50419127>

- ◇ オンライン上の文書のタイトルはイタリックにすること。
- ◇ 可能なら文書が公表された日付を記載すること。

3. 日本語文献の記載について

3.1 基本ルール:

☐ 参考文献は、第一著者の姓をあいうえお順で並べること。英語文献と日本語文献を混ぜたリストを作成するのではなく、英語・日本語を分けて記載すること。

- ◇ 同一の著者による複数の著作を引用する場合、上から年代的に古い順から並べること。
- ◇ 単独の著者による著作は、複数の著者を持つ著作で第一著者が同じ名前の場合、単独のものを先に記載すること。
- ◇ 最初の著者が同じで、二番目の著者が異なる著作の場合、二番目の著者の姓のあいうえお順で記載すること。第一著者と第二著者が同じで、三番目の著者が異なる場合は、三番目の著者の姓のあいうえお順で記載すること。
- ◇ 同じ発行年で同じ著者の文献は、括弧の中に出版年を入れ、それに続きタイトルのあいうえお順に並べる。

3.2 日本語書籍の引用:

- ㊦ 基本形としては以下の例を参照。
岩井克人(2018)『会社はこれからどうなるのか』平凡社。
 - ◇ 情報記載の順番はAPA Styleに従うこと。
 - ◇ ただし、日本語文献に関しては著者名について姓名すべてを記載すること。
 - ◇ 出版年が続き、それを括弧で括ること。
 - ◇ 本のタイトルは二重鉤括弧(『』)で括ること。
 - ◇ 最後に出版社を記載すること。
 - ◇ 句点「。」を、文献情報の最後でのみ用いること。書籍名内で句読点がいわれている場合は、読点「、」と句点「。」を用いること。

3.3 定期刊行物の日本語論文の引用:

- ㊦ 基本形としては以下の例を参照。
寺田麻佑(2019)「先端技術の発展と行政組織 —人工知能に関する議論を中心に—」『一橋法学』18(2)、81-98。
 - ◇ 基本的に書籍の一覧表作成の場合と同様だが、相違点は以下の通り。
 - ◇ 論文のタイトルは鍵括弧(「」)、定期刊行物のタイトルは二重鉤括弧(『』)で括ること。
 - ◇ 論文が掲載されている定期刊行物の巻とページ番号を記載すること。
 - ◇ 出版社情報は含めなくて良い。ただし、定期刊行物の発行部数が限られている場合は、出版社情報を含めることが望ましい。(例)『社会科学ジャーナル(国際基督教大学)』
 - ◇ 句点「。」と読点「、」を用いること。読点は定期刊行物の巻号の直後、句点は文献情報の最後でのみ用いる。論文題目等で句読点がいわれている場合は、読点「、」と句点「。」を用いること。
 - ◇

3.4 日本語書籍の中の章の引用:

- ㊦ 基本形としては、以下の例を参照。
秋山肇(2022)「日本国憲法の視点から考える新型コロナ対策 一人権の多面性と国家の役割」秋山肇(編)『ポスト・コロナ学 —パンデミックと社会の変化・連続性、そして未来』(pp. 37-53)、明石書店。
 - ◇ 基本的には、書籍の一覧表作成の場合と同様だが、相違点は以下の通り。
 - ◇ 章のタイトルは鍵括弧(「」)で括ること。
 - ◇ 章タイトルの後に編者の名前を載せること。姓名両方を記載のこと。
 - ◇ 本のタイトルは二重鉤括弧(『』)で括り、その後に括弧の中に掲載ページを記載すること。
 - ◇ 句読点について、ページ数の「pp」の後には欧文のピリオド「.」を用い、半角スペースの後にページ数を記載すること。その他の個所について、ページ数の後は読点「、」を、文献情報の最後は句点「。」を用いること。章の題目や書籍名で句読点がいわれている場合は、読点「、」と句点「。」を用いること。

3.5 オンライン上の日本語文書の記載について:

- ㊦ 基本形としては、以下の例を参照。
吉川元偉(2020年6月7日)「瀬戸際の多国間枠組み(上) 国際社会結集、2国間基盤に」日本経済新聞。<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO61462590W2A600C2KE8000/>
 - ◇ オンライン上の文書のタイトルは鍵括弧(「」)で括ること。
 - ◇ 可能なら文書が公表された日付を記載すること。
 - ◇ 句点「。」を、文献情報の最後でのみ用いる。記事の題目等で句読点がいわれている場合は、読点「、」と句点「。」を用いること。

4. APA Styleの変更などに際して

APA Styleの仕様について変更があったなどして、APA Styleと本要項の指定する様式とに齟齬が生じている場合は、現行の『社会科学ジャーナル』執筆要項に記載されている指定が優先される。